榛原町内遺跡発掘調査概要報告書　1994年度

榛原町文化財調査概要　14

1995

榛原町教育委員会

榛原町内遺跡発掘調査概要報告書　1994年度

榛原町文化財調査概要　14

1994

榛原町教育委員会

例　　言

1　本書は奈良県宇陀郡榛原町内に所在する「榛原（はいばら）町内遺跡」の発掘調査概要報告書（榛原町文化財調査概要　14）である。

2　調査は、1994年度（平成６年度）に国庫補助事業・県費補助事業として榛原町教育委員会が実施し、平成６年10月３日に着手し、平成７年３月31日に完了した。

3　現地調査は、奈良県教育委員会の指導及び関係者の協力のもと榛原町教育委員会　技師　柳澤一宏が担当した。

4　調査組織および関係者は、各本文中に詳しい。

5　各遺跡の調査記録、遺物等は榛原町教育委員会において保管している。

6　本書の執筆・編集は柳澤が行った。

目　　次

Ⅰ　埋蔵文化財発掘調査の概要 …… 1

Ⅱ　位置と環境 …… 4

1　地理的環境

2　歴史的環境

Ⅲ　坊ノ浦遺跡発掘調査概要 …… 7

1　調査の契機と経過

2　位置と環境

3　遺跡の調査

4　まとめ

5　抄　録

Ⅳ　篠楽アサマ遺跡第2次発掘調査概要 …… 11

1　調査の契機と経過

2　位置と環境

3　遺跡の調査

4　まとめ

5　抄　録

Ⅴ　南山古墳第3次発掘調査概要 …… 15

1　調査の契機と経過

2　位置と環境

3　遺跡の調査

4　まとめ

5　抄　録

Ⅵ　下城・馬場遺跡第3次発掘調査概要 …… 21

1　調査の契機と経過

2　位置と環境

3　遺跡の調査

4　まとめ

5　抄　録

Ⅰ　埋蔵文化財発掘調査の概要

榛原（はいばら）町では、1968年（昭和43年）以降、土木工事等の開発行為にともなう埋蔵文化財の発掘調査が本格的に行われている。今後も町内各所で多くの開発行為が計画されており、これに伴う埋蔵文化財の取り扱い等について協議を重ねているところである。1989年度（平成元年度）から1994年度（平成５年度）までに榛原町教育委員会が扱った発掘届・通知、発掘調査等は、表１のとおりである。

1994年度の発掘調査等（表２）のうち、本書には、国庫・県費補助事業として実施した坊ノ浦遺跡、篠楽アサマ遺跡、南山古墳、下城・馬場遺跡の発掘調査概要を収録している。なお、開発行為に伴う調査である坊ノ浦遺跡と篠楽アサマ遺跡は工事実施予定、また、下城・馬場遺跡については埋め戻しを行い、遺構等を保存しているところである。範囲確認調査の南山古墳については、検出遺構の外護列石等は埋め戻している。

表１　発掘届・発掘調査件数等一覧表

年度 / 摘要	1989 平成元	1990 平成２	1991 平成３	1992 平成４	1993 平成５	1994 平成６
発掘届（法57−2）	0	4	4	11	3	9
発掘通知（法57−3）	6	9	4	7	7	5
発掘届・通知合計	6	13	8	18	10	14
遺跡踏査願	3	4	2	2	2	1
発掘調査(町教育委員会担当)	3	7	7	6	8	10
立会調査(町教育委員会担当)	1	0	0	3	1	2
測量調査(町教育委員会担当)	0	0	1	1	0	0
調査件数合計	4	7	8	10	9	12

写真１　内牧ウツキナワテ遺跡のひとこま

表２　1994（平成６）年度発掘調査等一覧表

番号	調査別	榛原町遺跡地図番号・奈良県遺跡地図番号	遺跡名	調査地	現地調査期間	調査原因（原因者）	調査面積（㎡）
1	発掘調査	3－46・103－46	桧牧遺跡（第３次調査）	榛原町桧牧2107－４	1994．5.10～1994.10.26	公園造成工事（榛原町）	1392
2	発掘調査	1－123・（未登載）	長峯柿本遺跡	榛原町長峯200	1994．7.25～1994．8.12	特別養護老人ホーム建設工事（社会福祉法人豊生会）	87
3	発掘調査	4－26・105－５	内牧ウツキナワテ遺跡	榛原町内牧349、351、353、365、366、368～370、372	1994．7.19～1994.10.26	農地造成工事（榛原町）	1493.2
4	発掘調査	4－29・105－８	内牧井ノ上遺跡	榛原町内牧1948-1、1963、1964、1965、1951	1994.11.10～1994.11.21	農地造成工事（榛原町）	219.8
5	発掘調査	4－３・103－51	坊ノ浦遺跡	榛原町自明151	1994.11．4～1994.11．７	水田形状変更（個　人）	9
6	発掘調査	2－216・15－Ｂ－91	篠楽向山７号墳	榛原町篠楽41－２	1994.11.14～1994.11.24	農道建設工事（大字陀町）	80
7	発掘調査	1－222・（未登載）	篠楽アサマ遺跡（第２次調査）	榛原町篠楽38	1995．1.10	駐車場造成工事（個　人）	6.3
8	発掘調査	1－18・12－Ｄ－６	南山古墳（第３次調査）	榛原町萩原玉小西1868－１	1994.12.21～1995．3.30	範囲確認調査（榛原町）	73
9	発掘調査	2－546・15－Ｄ－90	下城・馬場遺跡（第２次調査）	榛原町沢1292	1995．2.20～1995．3.30	農地改良工事（個　人）	90
10	発掘調査	1－98・15－Ｂ－８	丹切遺跡（第６次調査）	榛原町萩原306	1995．2．７	寺院増築工事（法清寺）	10
11	立会調査	2－300・15－13－８	町「２－300」遺跡（仮称）	榛原町笠間2414－１	1994.12.16	農業用倉庫建設工事（個　人）	
12	立会調査	4－３・103－51	坊ノ浦遺跡	榛原町自明137－１	1994.12.21	個人駐車場（個　人）	

調査概要		遺跡概要	備考
遺構	遺物		
石組遺構、土坑、ピット	サヌカイト、石鏃、弥生土器、須恵器、土師器、瓦器、陶器、磁器、鉄刀子、鉄釘、鉄斧、砥石ほか	縄文時代～中世の遺物散布地・集落跡	1993年度からの継続調査
火葬墓1	須恵器、土師器、瓦器、陶器、磁器、青磁、鉄刀、鉄釘、銭貨	古墳時代・中世の遺物散布地 平安時代の墳墓	
掘立柱建物、土坑、溝、ピット	サヌカイト、石鏃、須恵器、土師器、瓦器、陶器、磁器、鉄釘、鉄鎌、鉄滓、銭貨ほか	縄文時代～中世の遺物散布地、平安時代～中世の集落跡	
土坑、ピット	サヌカイト、須恵器、土師器、瓦器、陶器、磁器ほか	縄文時代～中世の遺物散布地	
なし	須恵器、土師器、瓦器	縄文時代、平安時代～中世の遺物散布地	本書所収
（墳丘盛土）	須恵器、土師器、紡錘車	5世紀後葉～6世紀前葉の古墳群（11基）	1993年度からの継続調査
なし	土師器	弥生時代～古墳時代、中世の遺物散布地（集落跡）	本書所収
墳丘盛土、外護列石、横穴式石室	サヌカイト、弥生土器、須恵器、土師器、瓦器ほか	飛鳥時代（7世紀）の磚積石室墳	本書所収
礎石柱建物、土坑、ピット	サヌカイト、須恵器、土師器、瓦器、瓦質土器、陶器、磁器、青磁、白磁、銭貨、鉄釘、鉄滓、銅製品、ガラス滓、フイゴ羽口、石臼、砥石、犬形土製品、瓦ほか	縄文時代、弥生時代、古墳時代の遺物散布地 中世の居館跡	本書所収
（自然谷地形）	須恵器、土師器、製塩土器	縄文時代～中世の遺物散布地	
なし	なし	古墳時代の遺物散布地	
なし	なし	縄文時代、平安時代～中世の遺物散布地	

II 位置と環境

1 地理的環境

奈良盆地の東方の山間部に宇陀と呼ばれている地域が広がっており、現在の行政区画では大宇陀町、榛原町、菟田野町、室生村、曽爾村、御杖村からなっている。この宇陀地方は地理的な状況から西半と東半に大別でき、一般に前者が「口宇陀」、後者が「奥宇陀」とも総称されている。口宇陀は標高300～400mの丘陵とこの間を縫って流れる中小河川が複雑に入り乱れ、これらが幾つもの小盆地や浅い谷地形を形成しており、口宇陀盆地とも総称され、大宇陀町、榛原町、菟田野町の大半がここに含まれている。これに対し、東部の奥宇陀は室生山地、高見山系などの峻しい山々が連なっており、奥宇陀山地とも呼称されている。口宇陀地域の主要河川は、西に宇陀川、東に芳野川があり、幾つもの小河川を合わせながら榛原町萩原で宇陀川本流となる。榛原を後にした宇陀川は三重県で名張川となり、木津川、淀川を経て遠く大阪湾へと至り、大和川流域とは水系を異にしている。

榛原町の四周は概ね標高約400～800mの山塊に囲まれ、東は高城岳、三郎岳、室生村へと通じる石割峠があり、北は大和高原とをわける額井岳、香酔山、鳥見山などの山々が屏風状に連なり、宇陀の地を見下ろしている。西は桜井市や大宇陀町、南は菟田野町となっており、丘陵をもってそれぞれの境界としている。

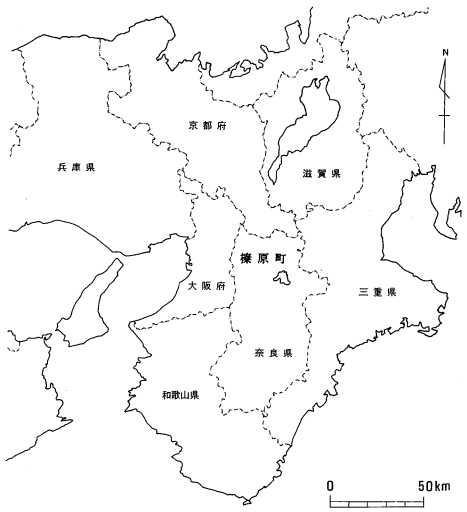


図1 榛原町位置図

2 歴史的環境

宇陀地方は、『古事記』、『日本書紀』をはじめとする多くの文献にも度々登場し、軍事・交通の要衝であったことを窺い知ることができ、今に残る地名や伝承なども多い。また、榛原町を流れる宇陀川・芳野川・内牧川流域の各所には旧石器時代末期以降、中世・近世にいたる各時代の多数の遺跡が分布している。これらの遺跡をとりまく環境は、近年の開発事業等によって厳しい状況となっており、毎年いくつかの遺跡が「記録保存」という名のもとにその姿を消し、その調査記録だけが私たちの祖先から伝えられてきた遺跡を知る唯一の手がかりとなっている。紙幅の関係上、詳細な歴史的環境は、これまでに刊行されてきた発掘調査報告書等を参照していただきたい。

図２　1994年度発掘調査等位置図

III　坊ノ浦遺跡発掘調査概要

1　調査の契機と経過

(1)　調査の契機と経過

榛原町自明に所在する坊ノ浦遺跡は、縄文時代から中世の遺物散布地として遺跡地図にも登載（榛原町遺跡地図番号4－3、奈良県遺跡地図番号103-51）しているところである。この遺跡散布地内の一部において、水田の形状変更が行われることとなり、1994年6月には土地所有者から埋蔵文化財発掘届が掲出された。関係機関等が遺跡の取り扱い・調査方法等を協議した結果、榛原町教育委員会が国庫・県補助事業として発掘調査を実施することとなった。発掘調査は、遺構・遺物の状況等を確認する試掘調査を行い、その状況によっては、改めて本調査を実施することとした。発掘調査は事務手続を経たのち、現地調査は1994年11月4日と11月7日の2日間に行った。なお、遺跡名は調査地周辺の通称名である「坊ノ浦」によっている。

調査関係者は次のとおりである。

調　査　主　体　榛原町教育委員会（教育長　山尾正弘）
調　査　担　当　課　榛原町教育委員会　社会教育課（課長　巽幹雄）
調　査　担　当　者　榛原町教育委員会　社会教育課　技師　柳澤一宏
調　査　補　助　員　井上好美、山本美恵子、南信子、菅田友理、福井大輔
調　査　指　導　奈良県教育委員会　文化財保存課
調　査　協　力　古川信雄、龍美建設

(2)　現地調査日誌抄

1994年（平成6年）

11月4日（金）

地形測量。写真撮影。

11月7日（月）

掘り下げ作業。精査。写真撮影。実測図作成。埋め戻し。

2　位置と環境

坊ノ浦遺跡は、榛原町の市街地から約2.5㎞の東方、内牧川右岸の河岸段丘上を中心とした標高約310～320ｍの水田地帯に広がっている。明確な遺跡の範囲は明らかにできないが、おおむね南北約150ｍ、東西約600ｍが遺跡の範囲と推定しているところである。調査地は遺跡の東半部分に相当し、段丘面から徐々に丘陵へと移行する場所にあたる。調査地の東方約600ｍには中世の山城・桧牧城跡、対岸の西方約500ｍには奈良時代から中世の遺物散布地である「内牧小学校遺跡（仮称）」が位置している。遺跡南端の内牧川沿いには、大和と伊勢とを結ぶ「伊勢本街道」が通り、現在では国道369号線がその役割を担っている。

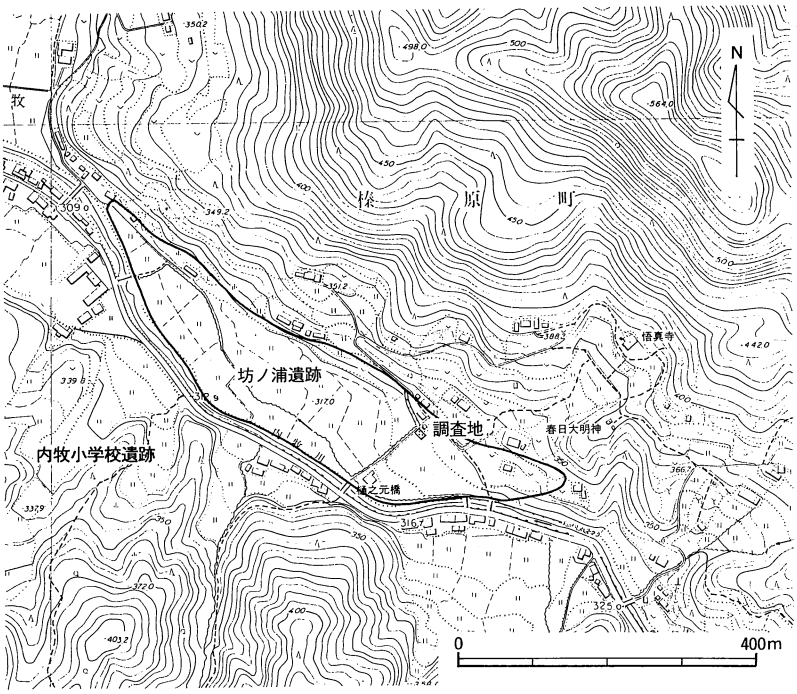


図３　坊ノ浦遺跡位置図

3　遺　跡　の　調　査

(1)　調査区と基本土層

発掘調査は、事業地の西寄りの水田部分で行い、南北約６ｍ、東西約1.5ｍのトレンチを設定した。基本土層は、耕作土（第１層・厚さ約30～40㎝）、黄橙色砂礫（第２層）となっている。さらに第２層には礫が多く認められ、その掘り下げが困難な状況となったので、地山面まではいたって

いない。

(2) 検出遺構

明確な遺構は認められない。

(3) 出土遺物

耕作土中から須恵器、土師器、瓦器の破片か出土しているが、摩滅が著しく、詳細な時期を明らかにできない。

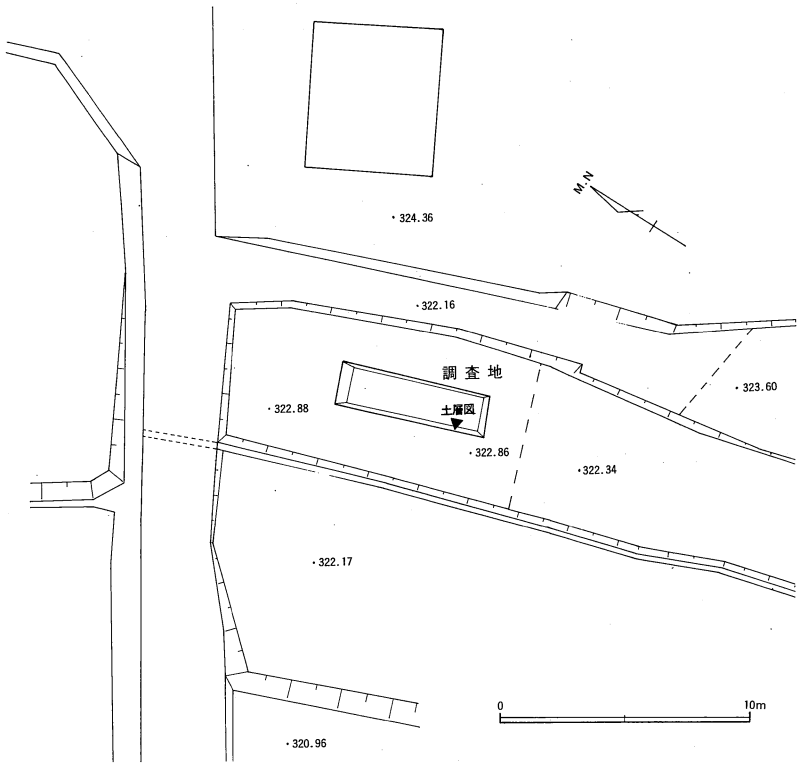


図4　坊ノ浦遺跡調査位置図

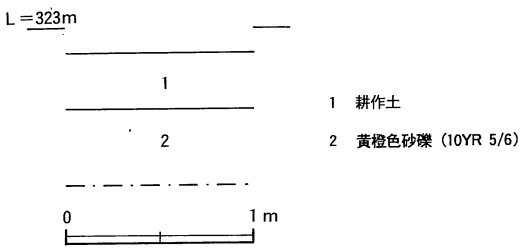


図5　坊ノ浦遺跡土層断面図

4 まとめ

第2層の黄橙色砂礫は、内牧川に灌ぐ小支流の氾濫等に伴う堆積層とも考えられるが、その掘削が容易ではなく多くの遺物を検出していないため、黄橙色砂礫の検出面でその調査を終えることとした。一部において掘削を試みたが、その状況には変化がなく、砂礫層中からの出土遺物は認められない。出土土器は摩滅しているものの、平安時代～室町時代の範疇のものである。

坊ノ浦遺跡は、在地豪族のひとりである県氏によって開発された自墾地系庄園「桧牧庄」の一部と推定でき、この河岸段丘上には当時の遺跡・遺物が残されている可能性が高い。また、縄文時代の集落跡の可能性も十分考えられる。これらの確認等は今後の課題である。

5 抄　　録

遺跡名	坊ノ浦遺跡（榛原町遺跡地図番号4－3、奈良県遺跡地図番号103－51）
調査地	奈良県宇陀郡榛原町大字自明151番地
遺跡立地	標高約310～320mの河岸段丘
遺跡規模	南北：約150m、東西：約600m
種別	縄文時代、平安時代～中世の遺物散布地
調査主体	榛原町教育委員会（教育長　山尾正弘、社会教育課長　巽幹雄、調査担当者社会教育課　技師　柳澤一宏）
調査原因	水田の形状変更（事業主体：古川信雄）
現地調査期間	1994年11月4日、11月7日
調査面積	9㎡
検出遺構	な　し
出土遺物	須恵器、土師器、瓦器（整理箱　1箱）
資料等の保管	榛原町教育委員会（文化財整理室）

Ⅳ　篠楽アサマ遺跡第２次発掘調査概要

１　調査の契機と経過

(1)　調査の契機と経過

篠楽（ささがく）アサマ遺跡は、弥生時代～古墳時代・中世の遺物散布地として遺跡地図に登載（榛原町遺跡地図番号2-222）している遺跡である。1990年にはゴルフ練習場建設工事に伴い発掘調査（１次調査）を行い、谷部からは、弥生時代後期～古墳時代後期を中心とする多くの遺物が出土した。住居跡は確認できなかったものの、居住域はその周辺の尾根部分と推定しているところである。

第１次調査西隣の尾根部分の一部において、個人の駐車場造成工事が行われることとなり、1994年11月には土地所有者から埋蔵文化財発掘届が提出された。その後、関係機関等が遺跡の取り扱い・調査方法等を協議した結果、榛原町教育委員会が国庫・県費補助事業として発掘調査を実施することとなった。発掘調査は、遺構・遺物の状況等を確認する試掘調査を行い、その状況によっては改めて本調査を行うこととした。現地調査は、1995年１月10日に行い、その結果については、別掲のとおりである。

調査関係者は次のとおりである。

調査主体	榛原町教育委員会（教育長　山尾正弘）
調査担当課	榛原町教育委員会　社会教育課（課長　巽幹雄）
調査担当者	榛原町教育委員会　社会教育課　技師　柳澤一宏
調査補助員	井上好美、山本美恵子、南信子、松田恵子、辰己久美子、菅田友理、福井大輔
調査作業員	中谷喜代子、小林マン、菅原春栄、池田チヨ子
調査指導	奈良県教育委員会　文化財保存課
調査協力	池田幸男

(2)　現地調査日誌抄

1995年（平成７年）

１月10日（火）

掘り下げ作業。精査。写真撮影。測量図・実測図作成。

2　位置と環境

篠楽アサマ遺跡は、榛原町萩原の市街地の南西約1.5㎞の標高約310m～約350m尾根上・谷部に位置する。遺跡の範囲は南北約300m、東西約250mと推定され、その一部は大字陀町に含まれている。この遺跡の東隣には、篠楽向山古墳群や大王山遺跡群が確認されており、弥生時代～古墳時代、中世の遺跡が集中している地域でもある。

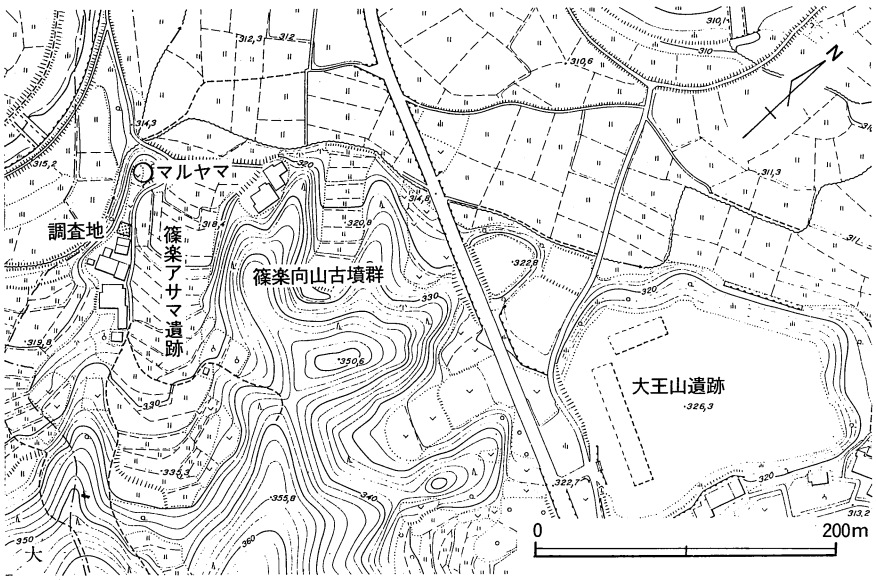


図6　篠楽アサマ遺跡位置図

3　遺　跡　の　調　査

(1)　調査区と基本土層

住宅に隣接した標高約312.4mの南北約８m、東西約８mの畑地が今回の調査対象地である。トレンチを東西方向（長さ4.5m、幅1.5m）に設定し、遺構・遺物の検出につとめた。基本層序は１層が暗褐色の耕作土、２層が黄褐色粘質土、３層が明褐色砂質の地山となっている。なお、地表から地山面までの深さは約50～60㎝である。

(2)　検出遺構

明確な遺構は認められない。

(3)　出土遺物

１・２層から若干の中世の土師皿片が出土しているが、詳細な時期については、明らかにできない。

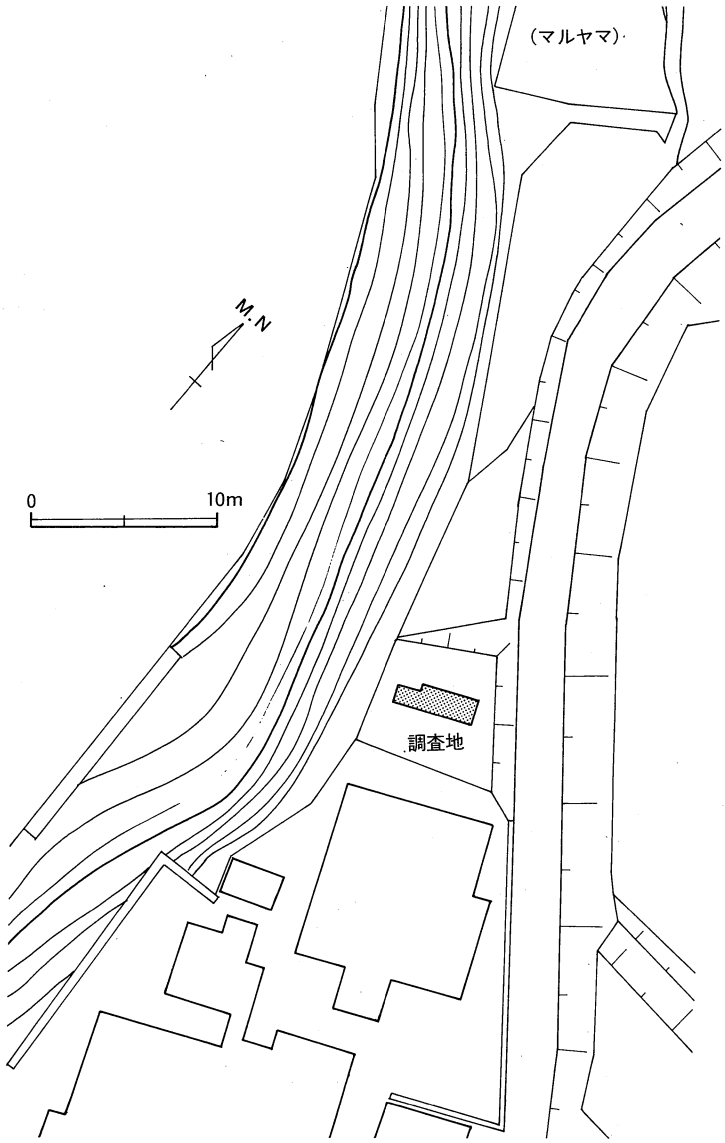


図7　篠楽アサマ遺跡第2次調査位置図

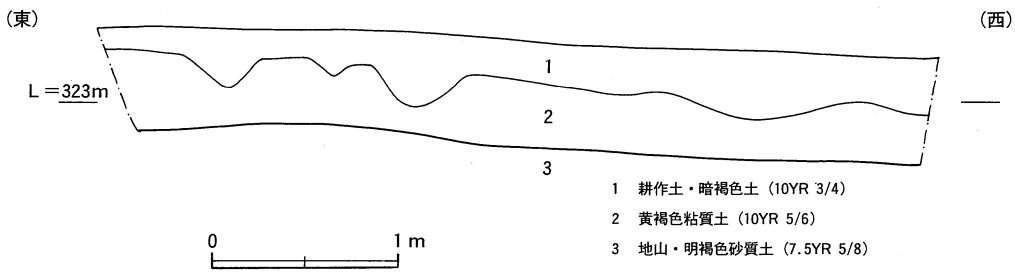


図8　篠楽アサマ遺跡第2次調査土層断面図

4 まとめ

篠楽アサマ遺跡の第１次調査地は、自然谷地形となっていたが、その谷埋土から弥生時代後期を中心とする多くの遺物を検出したため、西隣の尾根部分を居住域と推定しているところである。この尾根の大半は、後世の住宅等によって大きく改変されており、今回の第２次調査地も耕作等によって大きく改変され、遺構は認められなかった。

余談ではあるが、尾根先端部は、「マルヤマ」と呼称されており、現代の墓地となっているが、古墳状の隆起を呈している。

5 抄　　録

遺　跡　名	篠楽（ささがく）アサマ遺跡（榛原町遺跡地図番号2-222）
調　査　地	奈良県宇陀郡榛原町大字篠楽38番地
遺跡立地	標高約310～350ｍの尾根上、谷部
遺跡規模	南北：約300ｍ、東西：約250ｍ
種　　別	弥生時代～古墳時代・中世の遺物散布地（集落跡？）
調査主体	榛原町教育委員会（教育長　山尾正弘、社会教育課長　巽幹雄、調査担当者社会教育課　技師　柳澤一宏）
調査原因	個人の駐車場造成工事（事業主体：池田幸男）
現地調査期間	1995年１月10日
調査面積	6.3㎡
検出遺構	な　し
出土遺物	土師器（１袋）
資料等の保管	榛原町教育委員会（文化財整理室）

V　南山古墳第３次発掘調査概要

1　調査の契機と経過

(1)　調査史抄

南山（なんざん）古墳は、古くからその存在が確認されており、1892年（明治25年）起の『古墳墓調書』や1893年（明治26年）の『大和国古墳墓取調書』には、磚積の横穴式石室が開口した状況が描かれていることはよく知られているところである。

1972年には『宇陀の古墳』、1975年には『宇陀・丹切古墳群』において古墳及び石室の状況が調査・報告され、その成果が終末期古墳を研究するうえにおいて貴重な資料となっている。また、1983年には、奈良県立橿原考古学研究所内の磚槨墳研究会によって墳丘の測量調査が行われている。

(2)　調査の契機と経過

南山古墳は、先述のとおり著名な磚積石室墳であるが、近年、この横穴式石室の崩壊が進行しつつある。天井石や側壁の一部は崩落し、古墳の保全上、決して好ましい状況とはいえない。今後、古墳の保存をはかっていくための基本資料を得るため、範囲確認調査を実施することとなり、1992年度は墳丘の地形測量と現状の写真撮影（１次調査）、1993年は東西および北側の墳丘裾の確認調査（２次調査）を行っている。そして今年度は墳丘南裾部、前庭部、羨道部の一部の範囲確認調査（３次調査）を実施することとし、現地調査は1994年12月21日から1995年３月30日までの間、断続的に行った。

調査関係者は次のとおりである。

調査主体	榛原町教育委員会（教育長　山尾正弘）
調査担当課	榛原町教育委員会　社会教育課（課長　巽幹雄）
調査担当者	榛原町教育委員会　社会教育課　技師　柳澤一宏
調査補助員	井上好美、山本美恵子、南信子、松田恵子、辰己久美子、菅田友理、福井大輔、東山全克
調査作業員	中谷喜代子、小林マン、菅原春栄、池田チヨ子
調査指導	奈良県教育委員会　文化財保存課、奈良県立橿原考古学研究所、
調査協力	藤村恭之助、藤村多美、河上邦彦、豊岡卓之、宮原晋一、泉森皎、楠元哲夫、石野博信、奥田尚、泉武

2　位置と環境

南山古墳は、鳥見山から南東に派生する一尾根の標高約410～414mの稜線上に立地する。現在は、樹木によりその視界の大半は遮断されてはいるが、眼下には、記紀に登場する「墨坂」をはじめ、弥生時代から古墳時代の遺跡群が広がっている。また、背後には鳥見山、香酔山などの山々が屏風状に聳えている。

南山古墳が立地する尾根上には、現在までのところ他の古墳は認められず、単独で築造されている古墳である。なお、この古墳の北北西約100m標高約419mの尾根最高所には径６mの古墳状隆起（榛原町遺跡番号1-17）が認められる。

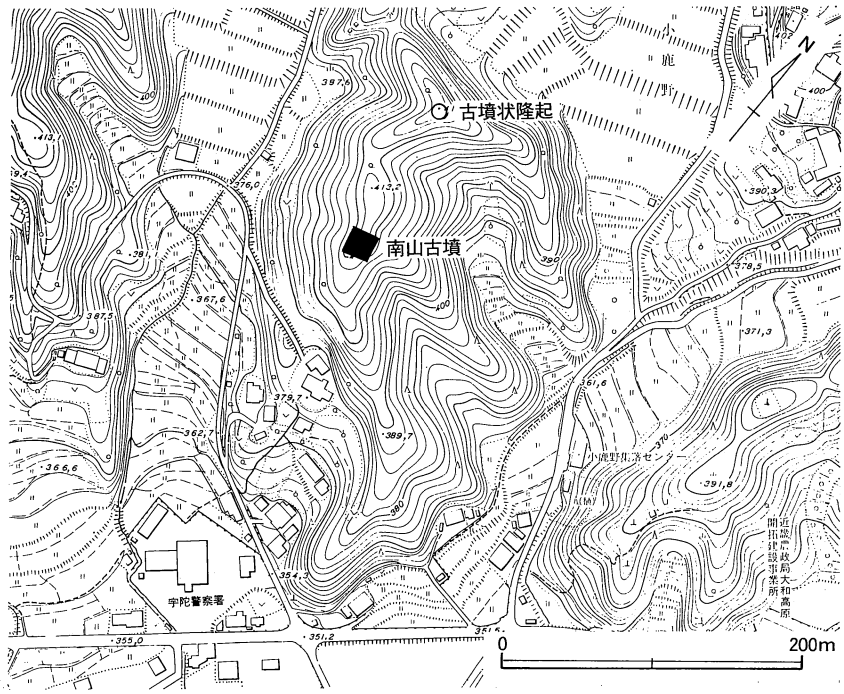


図９　南山古墳位置図

3　遺　跡　の　調　査

(1)　検出遺構

今年度は、前庭部および墳丘南裾部、羨道部の一部の確認調査を実施し、適宜、第４トレンチ～第６トレンチを設定し、遺構・遺物の確認につとめた。以下、その概要を述べる。

墳丘南裾において、延長12.5mの外護列石を検出した。調査前の測量図では比較的直線的となっている410.5m付近に位置する。羨道入口部分については、後世の撹乱が認められ、外護列石の有

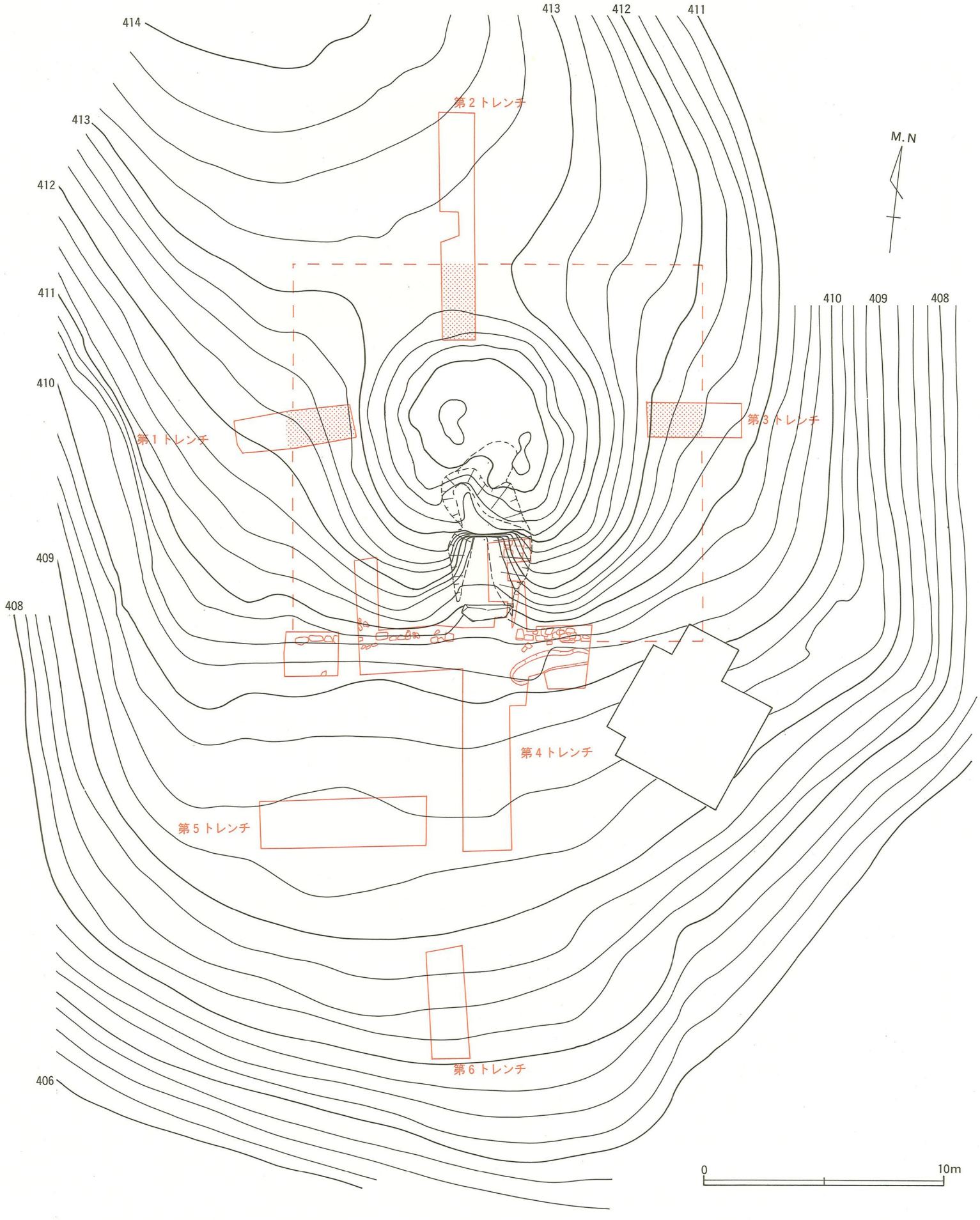


図10　南山古墳調査位置図

無は明らかでなく、また、羨道部との関係も不明である。列石の据え付けは、地山整形ののち、若干の墳丘盛土が施された段階において行われており、布掘りなどの溝状遺構は認められない。石材は地元に産する流紋岩質溶結凝灰岩、いわゆる「榛原石」を中心に用いられ、柱状節理・板状節理を利用した板石が１段～４段に積まれている。石材は大形のもので25㎝×55㎝、小形のもので10㎝×25㎝程度のもので、いずれも側面には鑿跡が認められ、比較的丁寧に整えられている。

羨道部は、東半部の確認調査を行い、延長１ｍの側壁を確認している。過去に天井石は持ち去られ、その一部が羨道部南端に埋没している。羨道東壁は、15㎝×50㎝～25㎝×30㎝の長方形に整えられた石材が、８段分認められ、床面からの現存高は1.25ｍである。羨道端は、現状では階段状となっているが、これが石室構築当初の可能性も考えられる。本来、羨道側壁は、10～11段の石材によって構成され、その上に天井石が架構されていたと推定される。ボーリング調査によって、西側壁の残存も確認でき、その羨道幅は約1.3ｍである。

図上での計測ではあるが、石室規模は全長5.6ｍ、玄室長3.3ｍ、玄室幅2.2ｍ、推定玄室高2.6～３ｍ、羨道長2.3ｍ、羨道幅1.3ｍ、復元羨道高1.5ｍとなる。

前庭部にも第５・６トレンチを設定したが、褐色土の表土下は明赤褐色の地山面となっており、明確な遺構は認められない。

(2) 出土遺物

羨道部撹乱土から須恵器、土師器、瓦器、墳丘盛土からはサヌカイト、弥生土器、須恵器、土師器などが出土している。須恵器は６世紀前葉、瓦器は12世紀中～後葉のものである。７世紀代の須恵器も認められるが、細片のため、明確な時期を明らかにできない。

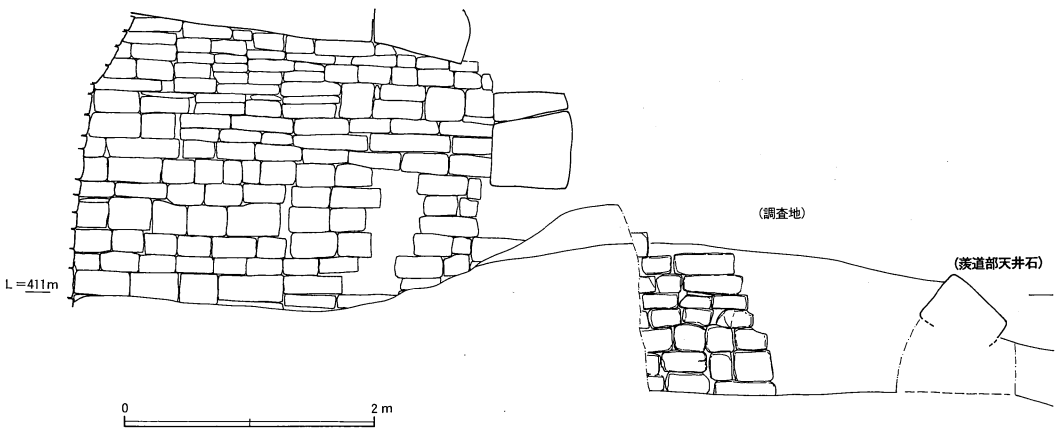


図11　南山古墳横穴式石室（東壁）実測図

4 まとめ

昨年度の発掘調査によって南北16m、東西17m、高さ１～4.3mの円墳と考えていたが、今回の発掘調査によって南側において東西方向に直線的にのびる外護列石を検出したことから、一辺17mの方墳の可能性が高くなった。一方、南裾が方形、その他の裾が円形となる馬蹄形状の墳形も考えられる。このためには、墳丘北東ないし北西部分の確認調査が必要となってくるであろう。

南山古墳の築造年代は、磚積石室の形態、構造、用材等から７世紀中葉前後の築造と考えてきたが、この時期の遺物は数少なく、弥生時代、古墳時代（６世紀前葉）、平安時代後葉（12世紀）のものが大半を占める。前２時期は南山古墳築造以前、後１時期は南山古墳築造後の利用を考えさせるものである。なお、詳細な検討・報告等は後日としたい。

5 抄　　録

遺跡名	南山（なんざん）古墳（榛原町遺跡地図番号1-14、奈良県遺跡地図番号 12-D-6）
調査地	奈良県宇陀郡榛原町大字萩原　玉小西1868-1番地（小字：南山）
遺跡立地	標高約410～414mの尾根稜線上
種別	古墳
遺跡概要	南北：約16m、東西17m、高さ１～4.5mの方墳？ 埋葬施設は横穴式石室（磚積石室）、南裾に外護列石
調査主体	榛原町教育委員会（教育長　山尾正弘、社会教育課長　巽　幹雄、調査担当者　社会教育課　技師　柳澤一宏）
調査原因	範囲確認調査
現地調査期間	1994年12月21日～1995年３月30日
調査面積	73m²
検出遺構	外護列石、横穴式石室（羨道の一部）
出土遺物	サヌカイト、弥生土器、須恵器、土師器、瓦器
資料等の保管	榛原町教育委員会（文化財整理室）

Ⅵ　下城・馬場遺跡第３次発掘調査概要

１　調査の契機と経過

下城・馬場遺跡は奈良県宇陀郡榛原町大字沢に位置し、沢城跡から南方へ派生する尾根筋とその間を流れる小支流によって形成された小規模な谷地形の先端部の一角を占めている。遺跡は尾根の西斜面に広がり、３段にわたる平坦面が形成されている。遺跡の現状は、大半が畑地や水田となっており、以前から縄文時代から中世にいたる遺物が散布しているところでもある。

最高所の平坦面において、個人による土地改良工事が計画されたため、遺構・遺物の状況を把握する発掘調査を継続的に実施することとし、1994年１月から３月には第２次調査を行っている。そして今年度の第３次調査は、第２次調査地の北側のその対象とし、1994年２月20日から1994年３月30日にかけて現地調査を実施した。

調査関係者は次のとおりである。

調査主体	榛原町教育委員会（教育長　山尾正弘）
調査担当課	榛原町教育委員会　社会教育課（課長　巽幹雄）
調査担当者	榛原町教育委員会　社会教育課　技師　柳澤一宏
調査補助員	井上好美、山本美恵子、南信子、松田恵子、辰己久美子、菅田友理 松田擁、福井大輔、東山全克
調査作業員	田中昇、太田政信、北中美代子、橿原美智子、砥出愛子、橿原栄子 岡野イエ、田中京子、中谷喜代子、小林マン、菅原春栄、池田チヨ子
調査指導	奈良県教育委員会　文化財保存課
調査協力	沢自治会、龍美建設、㈱アイシー

２　位置と環境

下城・馬場遺跡は、先述のとおり、尾根の西斜面、標高約339m～351mの一角を占めており、芳野川が流れる西方への眺望が比較的良好で、遠く、宇陀地域の代表的な中世山城である秋山城跡を望むことができる。また、北方には沢城跡や伊那佐山を仰ぎ見ることができる。この遺跡の周辺、縄文時代～中世の沢遺跡、弥生時代～中世の延命寺遺跡、古墳時代前期の戸石・辰巳前遺跡や古墳時代前期～後期の野山古墳群などの遺跡が集中している地域でもある。

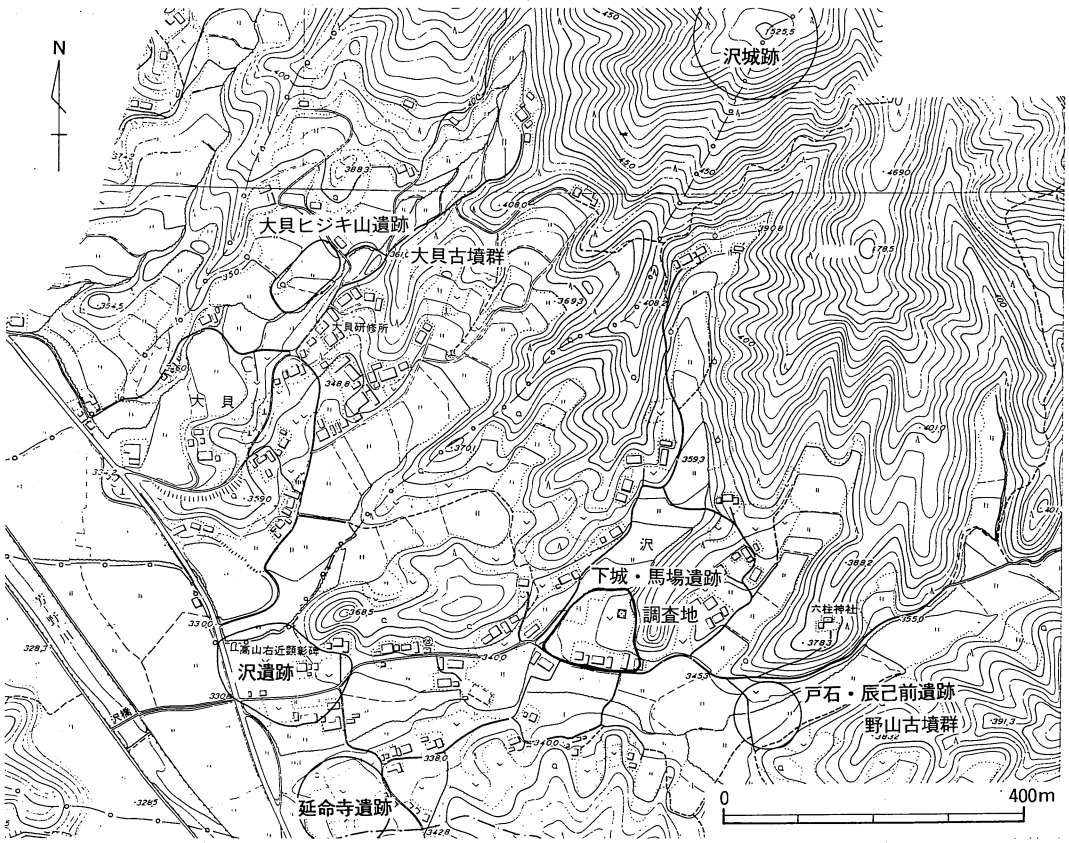


図12　下城・馬場遺跡位置図

3　遺　跡　の　調　査

(1)　調査区と基本土層

第２次調査の第１トレンチの北側の一部と重複してトレンチを設定し、第３トレンチ（長さ約14.5m、幅約５～6.5m）とした。

基本層序は、第１層が耕作上、第２層がにぶい黄橙色砂質土等、第３層が黄灰褐色土、灰褐色粘質土等となっている。第３層を除去すると、２次調査時の第２遺構面となる。地表から第２遺構面までの深さは約70～80cmである。

(2)　検出遺構

今回の調査は、２次調査時の第２遺構面を中心に遺構を検出することとし、礎石建物遺構・ピット等を確認している。第２遺構面となっている第４層を掘り下げると、第３遺構面が認められ、焼土面とともに礎石建物等を確認している。第２・３遺構面には、焼土面が認められ、礎石も焼けた状況となっている。第２遺構面の礎石建物遺構は現状では南北２間（約４m）以上、東西３間（6

m）となっており、さらに北方へのびる可能性がある。また、第３遺構面の礎石建物遺構は、第２遺構面の礎石建物遺構と重複する部分が多く、現時点ではその全容を明らかにできない。

(3) 出土遺物

遺物は第３～４層から比較的多く出土しており、主なものとしては、サヌカイト、須恵器、土師器、瓦器、瓦質土器、陶器、磁器、青磁、白磁、土師質の犬形土製品、瓦、鉄釘、鉄滓、銭貨、銅製品、ガラス滓、フイゴ羽口、石臼、砥石などが認められ、整理箱約30箱に相当する。整理段階のため、詳細は後日としたいが、中世土器の年代は、14世紀前葉から14世紀中葉のものが大半を占める。

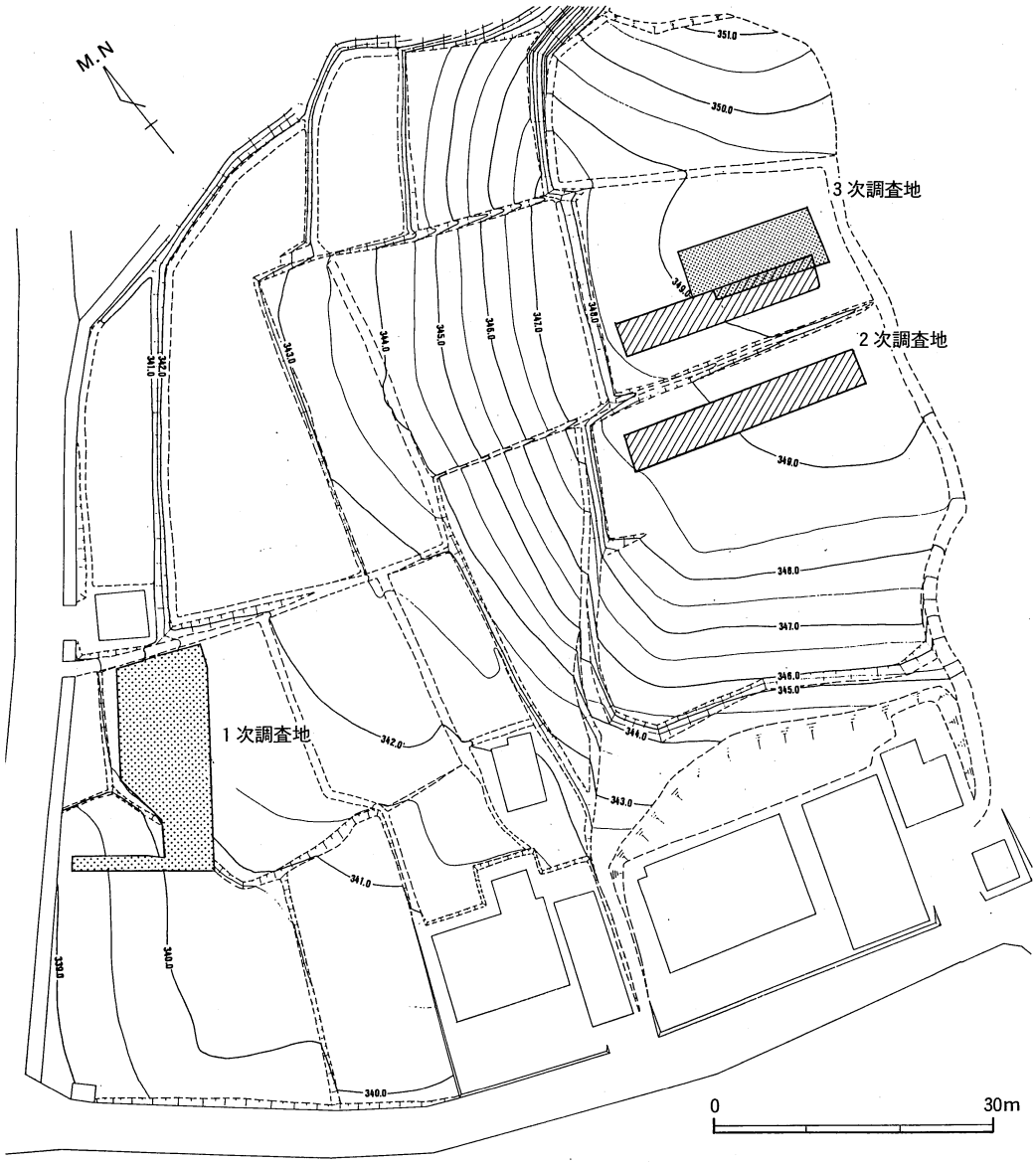


図13　下城・馬場遺跡調査位置図

4 まとめ

下城・馬場遺跡は、以前から縄文時代から中世の遺物散布地として奈良県遺跡地図にも登載されている。1984年の第1次発掘調査では縄文土器、弥生土器、中世土器か出土し、弥生時代の流路、中世の井戸、土坑、ピット等も検出しており、小字名（下城・馬場）から沢城及び沢氏に関係した居館跡と考えている遺跡でもある。

第2次・3次の発掘調査によって少なくとも、3時期の遺構面が確認でき、第2・3遺構面の各所には、焼土・炭層が認められる。調査面積が狭いため、遺構の全体構成は明らかにできないものの、第2・3遺構面には、数棟の礎石建物が想定できる。これらの礎石はいずれも焼けており、火災によってその建物が消失したことが考えられる。出土土器から第2遺構面は14世紀中葉頃、第3遺構面は14世紀前葉頃と考えられる。

沢氏の居館跡と考えられる下城・馬場遺跡は、整地、火災、整地が繰り返されているものの、12世紀～14世紀にわたって、その機能を果たしており、中世城館跡を調査・研究する上において重要な遺跡のひとつといえよう。

5 抄　録

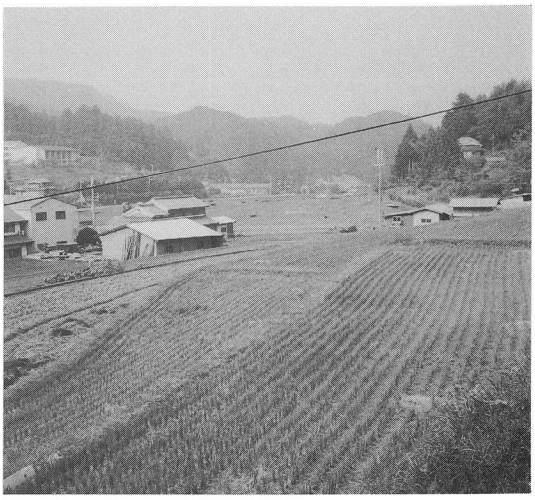
遺跡名	下城（しもんじょ）・馬場（ばば）遺跡（榛原町遺跡地図番号15-D-84、榛原町遺跡地図番号 2-544）
調査地	奈良県宇陀郡榛原町大字沢1292番地（小字名：下城）
遺跡立地	標高約339m～約351mの尾根上・谷部
遺跡規模	南北：約120m、東西：約100m
種別	縄文時代、弥生時代、古墳時代、中世の遺物散布地 中世の居館跡
調査主体	榛原町教育委員会（教育長　山尾正弘、社会教育課長、巽　幹雄、調査担当者社会教育課　技師　柳澤一宏）
調査原因	個人による土地改良工事（事業主体：田中昇）
現地調査期間	1995年2月20日～1995年3月30日
調査面積	90m²
検出遺構	礎石建物遺構、土坑、ピット
出土遺物	サヌカイト、須恵器、土師器、瓦器、瓦質土器、陶器、磁器、青磁、白磁、銭貨、鉄釘、鉄滓、銅製品、ガラス滓、コイゴ羽口、石臼、砥石、犬形土製品、瓦、他－整理箱30箱－
資料等の保管	榛原町教育委員会（文化財整理室）

図　　版

図版一　坊ノ浦遺跡

航空写真

遺跡遠景（西から）

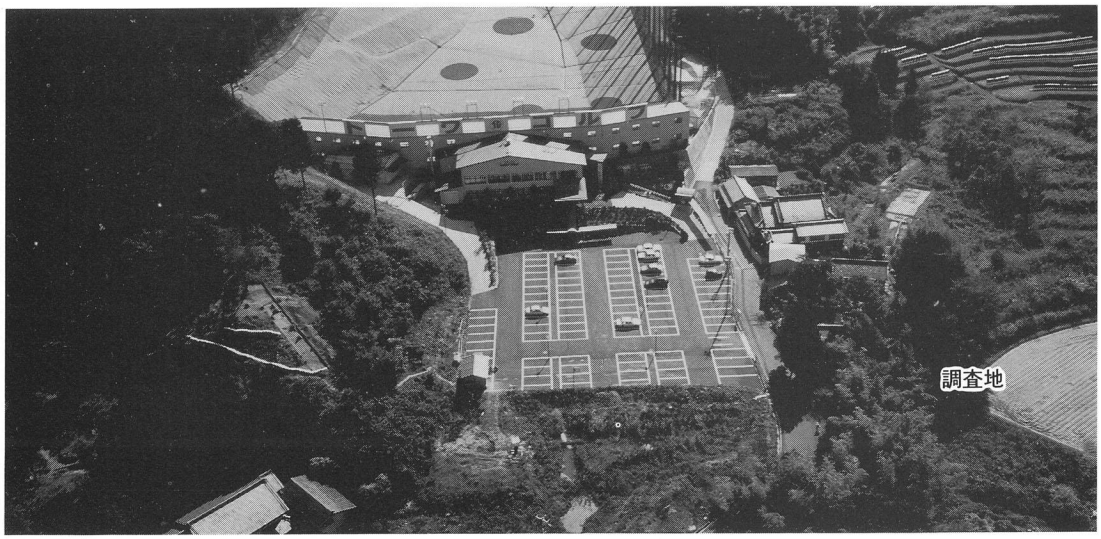


遺跡近景（東から）

調査地（北西から）

調査地（西から）

図版二　篠楽アサマ遺跡



航空写真

調査前（東から）

調査前（東から）

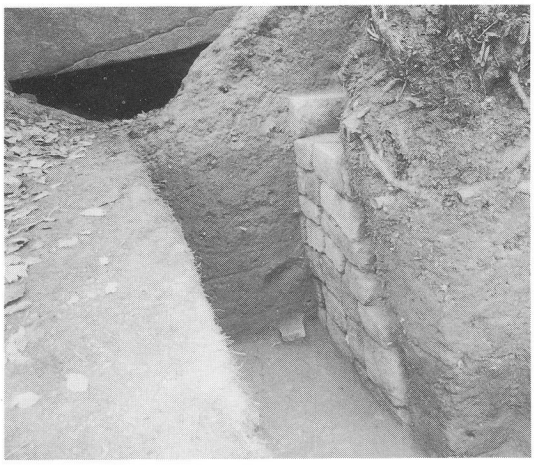
調査地（東から）

調査地土層断面（西から）

図版三　南山古墳

墳丘（南から）

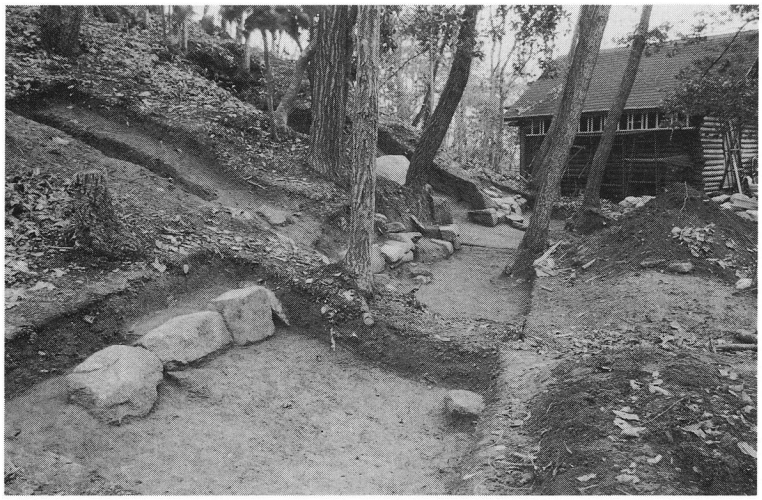
墳丘（北から）



羨道（南から）

羨道（西から）

図版四　南山古墳



外護列石西半（西から）

外護列石西半（東から）

外護列石西半部分（南から）

図版五　南山古墳

外護列石東半（南から）

外護列石東半（南から）

外護列石東半部分（西から）

図版六　下城・馬場遺跡

第３トレンチ（西から）

第３トレンチ（東から）

第３トレンチ遺物出土状況（南から）

報告書抄録

ふりがな	はいばらちょうないいせきはっくつちょうさがいようほうこくしょ
書名	榛原町内遺跡発掘調査概要報告書　1994年度
副書名	
巻次	
シリーズ名	榛原町文化財調査概要
シリーズ番号	１４
編著者名	柳澤一宏
編集機関	榛原町教育委員会
所在地	〒633-02　奈良県宇陀郡榛原町大字萩原164番地　TEL 07458-2-1301
発行年月日	西暦　1995年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
ぼうのうらいせき 坊ノ浦遺跡	ならけんうだぐんはいばらちょう 奈良県宇陀郡榛原町 おおあざじみょう 大字自明151番地	29383		34度 31分 06秒	135度 59分 00秒	1994.11.04～ 1994.11.07	9	個人の水田形状変更工事
ささがくあさまいせき 篠楽アサマ遺跡	ならけんうだぐんはいばらちょう 奈良県宇陀郡榛原町 おおあざささがく 大字篠楽38番地	29383		34度 31分 00秒	135度 56分 46秒	1995.01.10	6.3	個人の駐車場造成工事
なんざんこふん 南山古墳	ならけんうだぐんはいばらちょう 奈良県宇陀郡榛原町 おおあざはぎわら 大字萩原1868-1番地	29383		34度 32分 11秒	135度 57分 25秒	1994.12.21～ 1995.03.30	73	範囲確認調査
しもんじょ・ばばいせき 下城・馬場遺跡	ならけんうだぐんはいばらちょう 奈良県宇陀郡榛原町 おおあざさわ 大字沢1292番地	29383		34度 29分 26秒	135度 58分 17秒	1995.02.20～ 1995.03.30	90	個人の土地改良工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
ぼうのうらいせき 坊ノ浦遺跡	遺物散布地	縄文時代、平安時代～中世	なし	須恵器、土師器、瓦器	
ささがくあさまいせき 篠楽アサマ遺跡	遺物散布地（集落跡？）	弥生時代～古墳時代、中世	なし	土師器	
なんざんこふん 南山古墳	古墳	飛鳥時代	外護列石、横穴式石室（磚積石室）	サヌカイト、弥生土器、須恵器、土師器、瓦器	墳丘の南裾に外護列石
しもんじょ・ばばいせき 下城・馬場遺跡	遺物散布地 城館跡	縄文時代～古墳時代、中世	礎石建物遺構、土坑、ピット	サヌカイト、須恵器、土師器、瓦器、瓦質土器、陶器、磁器、青磁、白磁、銅製品、銭貨、鉄釘、鉄滓、ガラス滓、フイゴ羽口、石臼、砥石、犬形土製品、瓦	14世紀の礎石建物が上・下層で重複。いずれも火災で焼失。

榛原町内遺跡発掘調査概要報告書　1994年度

榛原町文化財調査概要　14

1995年　3月31日　発行

編集
発行　榛原町教育委員会
奈良県宇陀郡榛原町大字萩原164番地

印刷　共同精版印刷株式会社
奈良市三条大路2丁目2番6号